

環境取組実績報告書

2009



T-Tech
テイ・エステック株式会社

目次

■ TOPメッセージ	2
■ 基本姿勢 環境宣言	3
■ 2010年への取組の考え方	4
■ 年次目標と実績	5
■ 環境マネジメント	
1) 環境マネジメント活動	6
2) ISO14001認証取得状況	7
3) 環境トピックス	8
4) 環境監査	8
5) 生産活動に伴うマテリアルフロー	9
6) 環境リスクマネジメント	10
■ 2008年度環境保全活動実績	
1) 製品開発領域	11
2) 生産領域	15
3) 物流領域	19
4) 購買領域	20
5) 品質領域	21
■ 2008年度社会活動	22
■ 2008年度各事業所関連データ	23
■ 会社概要	30

報告書の対象範囲

期 間:2008年度(2008年4月～2009年3月)

組 織:テイ・エス テック国内全事業所(6事業所)、国内生産子会社(3社)、
及び海外の一部事業所を報告対象としております。

グローバル情報については、北中南米、アジア、EU、中国地域の生産・開発
子会社21法人及び関連会社1社を対象としております。

なお、当環境取組実績報告書は、テイ・エス テック独自の基準によって編集
いたしました。

「喜ばれる企業」の実現に向けて

昨年の世界金融危機に端を発した世界経済の減速は、自動車関連企業各社の業績に多大な影響を及ぼしました。2009年度に入ってから、自動車市場の動向は依然として不透明感が強く、当グループとしても厳しい経営環境が続いております。

一方、このような厳しい環境下ではあるものの、地球環境問題に対する活動は「企業の社会的責任」として停滞が許されないものとの認識から、当グループは継続して積極的な環境活動を展開してまいりました。

当社のような自動車内装品メーカーが、環境保全という社会的な要請にお応えするには、日々の操業に際して発生する環境負荷の軽減を追求することはもちろんのこと、製品の再資源化技術、そして、自動車の燃費向上に貢献する製品の軽量化技術などが重要となります。自動車の小型化・ハイブリッド化が進む中、こうした「環境対応技術」の更なる強化に取組み、環境にやさしい製品を生み出すことを通じて、持続性のある社会づくりに貢献していかなければならないと考えております。

企業理念である、存在を期待される「喜ばれる企業」の実現に向け、世界11ヶ国に展開するテイ・エス テックグループをあげて、地球環境の保全のために環境活動に取り組んでまいります。

皆さま方には是非ご一読を賜り、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせ願えれば幸いです。

代表取締役社長
古明地 利雄



環境基本方針

方針

わたしたちは常に地球環境と生物を汚染から守る為、法の遵守の基に製造業として無限の改善と進化に挑戦し、環境に優しいトップ企業を目指す。

行動指針

1. 商品の開発、生産、販売、廃棄の各段階においてライフサイクルアセスメント(LCA)の視点に立って廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理を図る。
2. 商品の開発、生産及びすべての事業活動で材料の有効利用と、資源、エネルギーの節約に努める。
3. 社会の一員として人の健康の維持と地球環境の保全、及び地域社会との共生に努力すべく、積極的に行動する。
4. ティ・エス テックグループとのより良い理解に向けて、積極的な情報の啓発と共有化を行う。
5. 海外事業活動において、当該国の環境基準の遵守はもとより、環境対策技術の海外移転を積極的に推進する。

1998年4月1日 制定

2010年への取組みの考え方

事業活動による環境影響と取組み内容（2008～2010年）

当社は2010年ビジョンである「Good Quality Company」の実現に向け、第10次中期事業計画（2008年～2010年の3ヵ年）を推進しております。当社は事業活動を推進すると同時に、事業活動から発生する環境負荷の削減に向け、テイ・エス テックグループとして、さらなる環境保全活動に取り組んでおります。

環境影響	領域	主な取組み内容
地球温暖化	製品開発 ■ 技術	・ リサイクル性向上の製品設計
資源枯渇		・ 規制化学物質を含有する材料の不 使用 ・ 省エネ／省資源を考慮した設備／ 工程設計
オゾン層破壊	生産 ■ 管理	・ リサイクル技術の確立
大気汚染		・ 省エネ／省資源を考慮した生産活 動 ・ VOC排出量の把握と削減 ・ ゼロエミッション
水質汚濁	購 買 ■ 物 流	・ 産業廃棄物の適正処理とリサイ クル促進
土壌汚染		・ 規制化学物質使用部品の低減
廃棄物		・ 物流効率の改善 ・ グリーン購買の促進

年次目標と実績

2008年度環境取組み計画と実績／2009年度計画

重要取組み項目		2008年度目標	施策	2008年度実績	達成度	2009年度計画
技製 術品 領開 域発	環境に優しい製品開発と工程設計	・製品軽量化推進 ・VOC低減	・シートフレームの構造変更による軽量化 ・新機種開発時の仕様・材料の改善	・シートフレームの構造変更による軽量化の実現（新機種に随時適用） ・ドア・ルーフの接着剤の変更	○	環境に優しい製品開発及び工程設計の継続
		CO ₂ 排出量 2000年度比: 4.7%削減 (2000年度実績:19,022t)	・空調設備の効率化 ・生産設備の代替エネルギー化(油・ガスからの電氣化)による効率改善	CO ₂ 排出量 2000年度比:17.5%削減 (2008年度実績:15,689t)	○	生産効率改善の維持・継続
生産・ 管理 領域	生産活動における環境負荷低減	ゼロエミッション (2005年達成済) 維持・継続	ゼロエミッション 維持・継続	ゼロエミッション 維持・継続	○	ゼロエミッション 維持・継続
		廃棄物のリサイクル推進	廃プラスチック等の マテリアルリサイクルの推進	樹脂成形品(量産・開発)の リサイクル実施	○	リサイクル 対象物の拡大
		水資源総使用量 2007年度比: 0.4%削減	・水供給設備の漏洩点検 ・全事業所による 節水活動	2007年度比: 4.8%削減	○	水使用量削減の 継続
		VOC排出量 2000年度比: 10.0%削減	・VOC ^{※1} 排出工程の改善 ・新機種開発時に代替材へ変更	2000年度比: 59.7%削減	○	VOC排出量削減の 継続
		環境マネジメントの周知	環境マネジメント教育	国内事業所での 環境教育	国内6事業所・関係会社 での環境教育実施	○
購買・ 物流 領域	グリーン 購買の促進	規制化学物質非含有 製品購入促進	・特定有害物質 ^{※2} 使用「0」化の継続 (2006年達成済) ・規制化学物質の低減	・特定有害物質使用「0」 化継続 ・接着剤含有化学物質の 代替剤への変更	○	特定有害物質使用 「0」化の 継続・監視強化
		物流領域の改善による 負荷低減	製品物流形態の見直し	・海外向け物流荷姿の 改善による省資源化 ・輸送ルート及び積載 効率の向上による 製品物流の改善	○	物流効率改善の継続
		環境負荷の少ない 製品の購入の促進	省エネルギー機器及び エコ商品の購入	・省エネ機器の購入 ・省エネエアコンへの切替	○	グリーン購買の促進

※1.VOC(Volatile Organic Compound):揮発性有機化合物。蒸発しやすく、大気中で気体となる有機化合物の総称です。

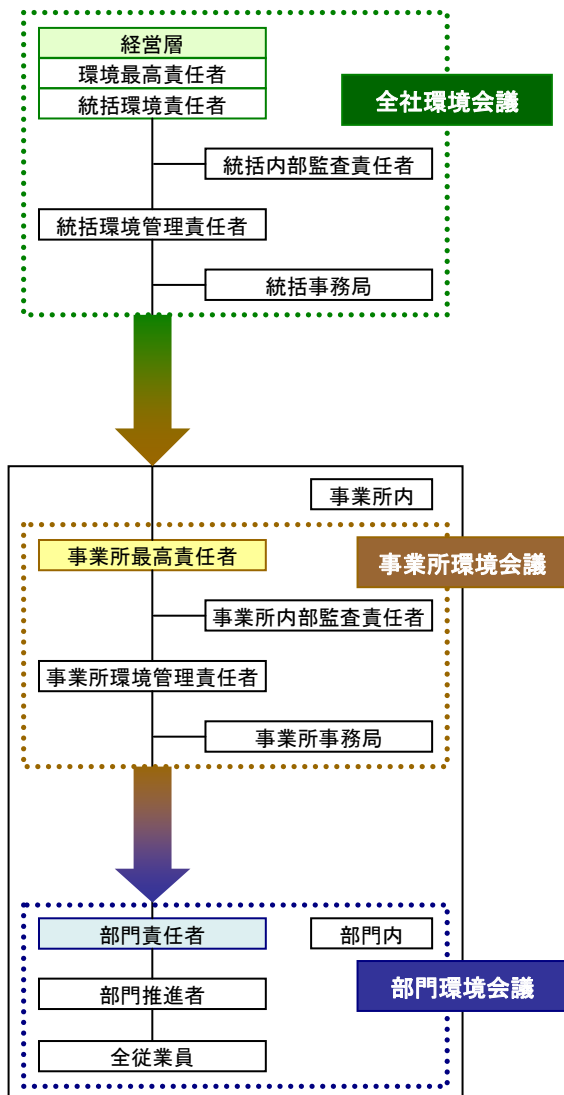
※2. 特定有害物質:鉛、六価クロム、水銀等のことです。

環境マネジメント

1) 環境マネジメント活動

当社における環境活動計画の方針は、経営方針を具現化する中期経営計画の中で決定されます。各実行部門は、中期経営計画に基づき、それぞれの詳細な活動計画を策定します。その中で環境マネジメント活動については、全社目標から各事業所目標の設定を行い、次期の活動計画に反映するというPDCAサイクルに基づいた継続的な活動として展開しております。活動計画の推進にあたっては、取引先の方々も環境マネジメントの対象者として、積極的に取り組んでいただいております。これは「全員が自分たちの仕事として環境課題に取り組んでいく」という考え方に基づいたものです。

環境マネジメント推進体制



環境マネジメント活動の基本



環境マネジメント

2) ISO14001認証取得状 (2008年度末現在)

	事業所	ISO14001取得日	取得拠点数
日本	埼玉：本社	2001年5月取得	2008年2月 統合取得 7拠点
	栃木：技術センター	1999年3月取得	
	埼玉：埼玉工場 (行田・狭山)	1999年3月取得	
	静岡：浜松工場	1999年3月取得	
	三重：鈴鹿工場	1999年3月取得	
	熊本：九州テイ・エス(株)	2000年9月取得	
	静岡：サン化学工業(株)	2001年10月取得	
	千葉：総和産業(株)	自主宣言計画中	
北中南米	TRI-CON INDUSTRIES, LTD.	2000年9月取得	9拠点
	TS TRIM INDUSTRIES INC.	2001年11月取得	
	TS TECH USA CORPORATION	2002年5月取得	
	TS TECH NORTH AMERICA, INC.	2002年5月取得	
	TS TECH ALABAMA, LLC.	2004年2月取得	
	TriMold LLC	計画 中	
	TS TECH INDIANA, LLC	計画 中	
	TS TECH CANADA INC.	2001年2月取得	
	TRIMONT MFG. INC.	2001年12月取得	
	INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXICO, S. A. DE C. V	2003年2月取得	
	TS TECH DO BRASIL LTDA.	2005年2月取得	
	アジア	TS TECH TRIM PHILIPPINES, INC.	
PT. TS TECH INDONESIA		2007年12月取得	
TS TECH (THAILAND) CO., LTD.		1999年11月取得	
TS TECH SUN (INDIA) LIMITED		2000年10月取得	
EU	TS TECH UK LTD.	2004年3月取得	1拠点
中国	広州提愛思汽車内飾系統有限公司	2004年6月取得	6拠点
	広州德愛康紡績内飾製品有限公司	2005年9月取得	
	寧波保稅区提愛思泉盟汽車内飾有限公司	2007年12月取得	
	寧波出口加工区提愛思泉盟汽車内飾有限公司	2007年12月取得	
	武漢提愛思全興汽車零部件有限公司	2007年10月取得	
	広州広愛興汽車零部件有限公司	2003年12月取得	

環境マネジメント

3) 環境トピックス

ISO14001キックオフ

2008年4月17日、事業所環境管理責任者及び事業所事務局が出席し、「63期ISO14001キックオフ大会」を開催し、63期環境マネジメントシステム取組みの意思統一を図りました。



ISO14001キックオフ

環境教育

- ・毎年4月の新入社員教育の中で、環境教育を実施し、当社社員としての環境意識の自覚と啓蒙を図っています。
- ・2008年5月から2009年1月にかけて7回にわたり、内部監査員養成教育を実施し、66名が内部監査員資格を取得いたしました。
- ・2008年7月から2008年9月にかけて3回にわたり、問題解決手法勉強会を実施し、27名が受講しました。
- ・2009年1月、事業所間（クロス）監査の精度向上のため、監査員9名を対象に「スキルアップ教育」を実施しました。



スキルアップ教育

4) 環境監査

第三者監査

2008年12月2日～5日、2008年度の第三者監査（審査）が全事業所を対象に実施されました。結果は、軽微な不適合3件、観察事項1件の指摘がありましたが、すべて是正対応を完了しております。環境取組実績報告書をホームページ上で公開していることや、事業所間（クロス）監査を実施していることが評価されました。



第三者監査

内部監査

2008年8月から2008年10月にかけて事業所間（クロス）監査を各事業所において実施いたしました。また、事業所内（自部門）監査も各事業所において随時実施されており、各内部監査での指摘事項に対する是正処置はすべて完了しております。



内部監査

マネジメントレビュー

2008年度の通期全社環境実績報告を、環境統括責任者に対して、環境管理責任者により実施いたしました。経営層からは大変に厳しい経営環境の中ではあるが、環境に対する社会のニーズに応じて、着実な前進ができるよう、環境活動の継続・推進の指示が出されました。

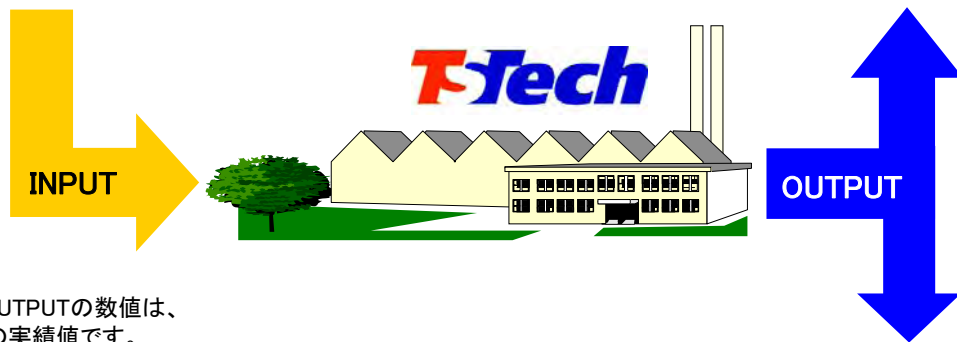
環境マネジメント

5) 生産活動に伴うマテリアルフロー

INPUT	
エネルギー投入量	37,795GJ※1
水資源投入量	323,376m ³
資材投入量(樹脂)	6,000t
資材投入量(ウレタン)	1,000t

※上記、資材購入以外に、その他購入(外作)部品があります。

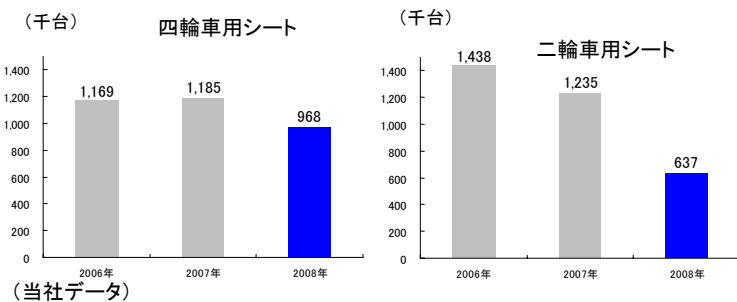
OUTPUT(環境負荷)	
CO ₂ 排出量	15,689t
廃棄物排出量	2,050t
VOC排出量	88t
PRTR報告対象物質	20t
騒音・振動・悪臭	規制値内



INPUTおよびOUTPUTの数値は、国内6事業所の実績値です。

※1.GJ(ギガジュール):仕事量、熱量及び電力量の単位、ジュールの10⁹倍
J(ジュール)は、SIIにおけるエネルギー、仕事、熱量、電力量の単位

生産台数グラフ



※生産台数は、国内生産分であり、全顧客向け生産の合算数値です。

OUTPUT(当社製品例)

Honda
インサイト用
シート



スズキ
GLADIUS用
シート



環境マネジメント

6) 環境リスクマネジメント

遵守状況

・廃棄物処理法

2008年度の総廃棄物量は2,050tです。廃棄物処理法に従い廃棄物の適正な保管、廃棄物処理業者への適正な処理委託、適正なマニフェスト管理をしております。また廃棄物削減に向けた取組みや、ゼロエミッションからリサイクル化に向けた製品開発や処理方法の改善にも積極的な取組みを行っております。

・PRTR法

2008年度のVOC排出量は88tです。PRTR法^{※1}に則った適正な処理、適正な届出等を実施し、問題の発生はありませんでした。

・水質汚濁防止法

工場から公共用水域に排出される水の排出及び地下に浸水する排水の定期的な観測を実施し、排水基準を遵守していることを確認しております。

・騒音規制法

指定地区内の工場における事業活動に伴う騒音を発生させる特定施設の事前届出をしており、定期的な観測を実施し、各地域の規制基準を遵守しております。

・土壤汚染法

各工場における土壤及び地下水の汚染状況の調査を定期的に行い、外部流出のないことを確認しております。

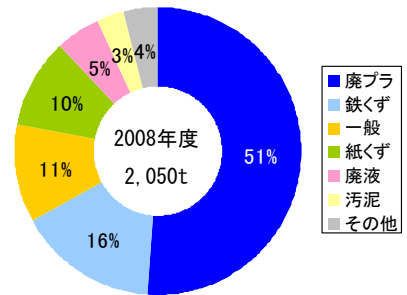
緊急事態対応

当社全事業所では事業活動から環境への影響の発生が予測される緊急事態に対し、従業員の対応スキルを向上させ、環境影響を最小限にとどめるために定期的に訓練を実施しています。また、生産活動で使用する設備・機械は毎日点検を実施し、異常の早期発見、早期保全に努め環境への影響と生産面に対する影響への未然防止に努めています。

改正省エネ法への対応

地球温暖化対策として2010年4月に施行となる「改正省エネ法」については、当社にて取組を実施しております。CO₂削減活動を更に推進すると共に、エネルギー管理の全社統括管理に向けた準備をしております。また、プロパンガスやガソリンから電力への切り替えを進めております。

廃棄物の種類と排出量グラフ

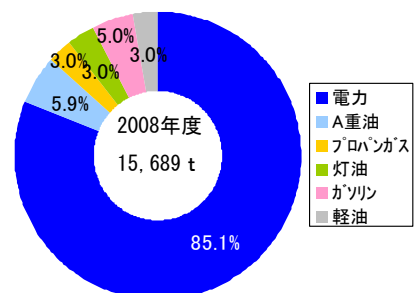


※1.PRTR法: 有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。



埼玉工場(行田)での緊急事態対応訓練

使用エネルギー (CO₂排出量ベース)



2008年度環境保全活動実績

各事業所領域における環境保全活動の実績

1) 製品開発領域

新機種開発シート 重量削減 事例

当社は、シートフレームの構造変更等による軽量化を実現し、新機種シートに順次搭載し地球環境保全に貢献しております。2009年モデルHondaオデッセイに採用されたシートにおいて、当社比で前モデル用シートに比べ12.2kg減/台を達成いたしました。

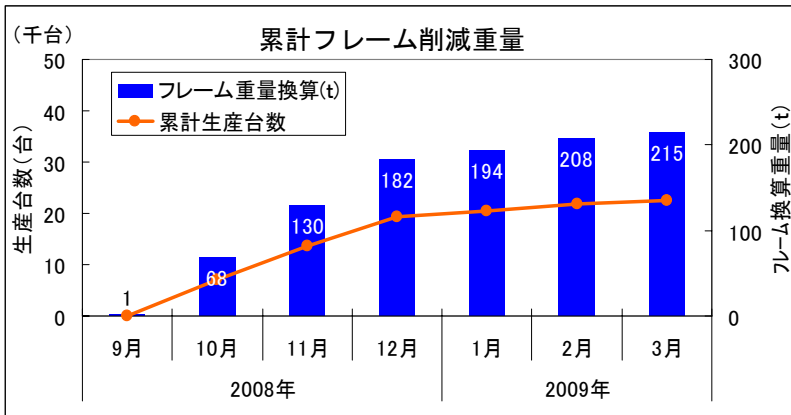
※他機種開発においても、同様の展開を行っております。



2009年モデル
Hondaオデッセイ用シート

※フレーム換算でのウエイト削減分は、約9.5kg/台となります。

<フレーム用金属換算>



※月別国内生産台数積算値として



215t削減

10tトラック22台分の
金属材料削減
(2008年9月～2009年3月)

開発トライ廃材の圧縮によるリサイクル 事例

廃材リサイクルの一環として、開発時に発生する廃材を圧縮機にて容積を小さくし、運送効率を上げ輸送時に発生するCO₂削減に貢献しております。また、リサイクル原料として業者に販売することで、樹脂のリサイクルにも貢献しております。



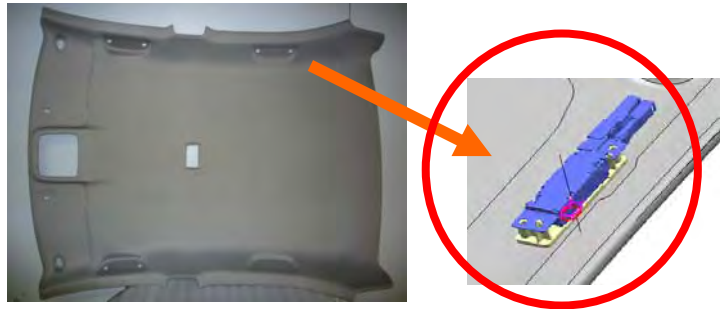
2008年度環境保全活動実績

1) 製品開発領域

新機種開発内装品でのVOC削減 事例

開発段階でVOC（揮発性有機化合物）の低減を行うため、代替材料の研究開発活動を継続的に展開し、VOC低減目標達成に寄与しています。

- ① 2009年モデルHondaアコード用ルーフトリムに取り付けている部品の接着剤を有機溶剤を使用しない接着剤に変更し、VOC低減に寄与いたしました。



2009年モデルHondaアコード用ルーフトリム表面

- ② ドアトリムのオーナメントパネル用塗料や布地貼り込み用接着剤をVOC規制対応品に変更し、作業現場から発生する環境負荷物質の削減に寄与いたしました。



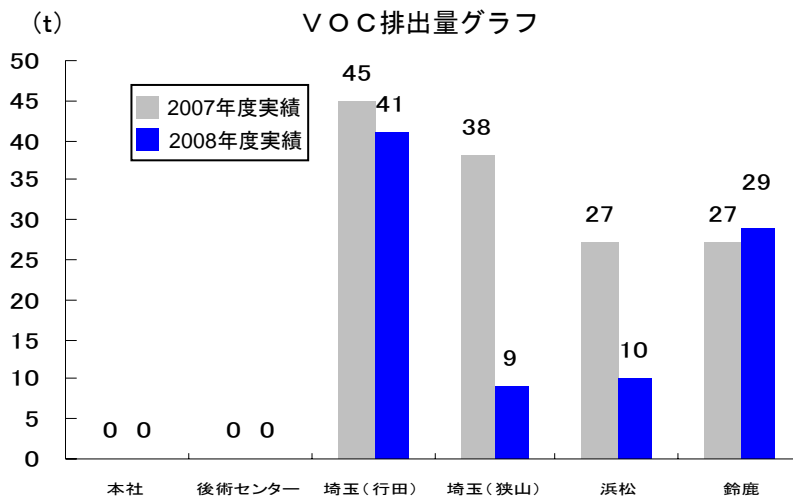
布地

2009年モデルスズキエスクード用ドアトリム



オーナメントパネル
(塗装品)

2009年モデルHondaオデッセイ用ドアトリム

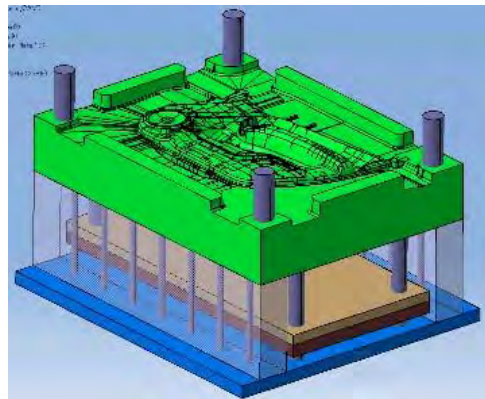


2008年度環境保全活動実績

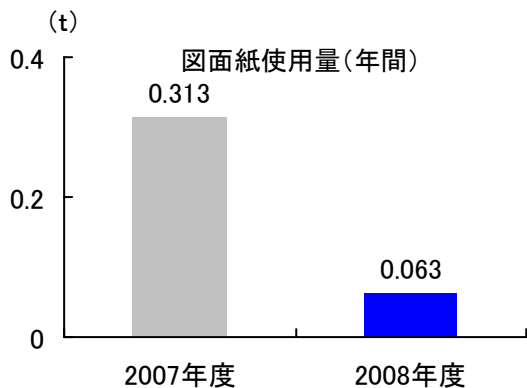
1) 製品開発領域

紙図の削減取組み 事例（栃木・金型設計）

金型設計作成ソフトを導入しパソコンにて図面を作成することで検図もパソコン画面上で行うことを可能にしました。これにより従来の紙図が不要となり、紙の使用量を大幅に削減することができました。



3D設計図面



CO ₂	削減量	前年度比	0.76t/年
	削減比	前年度比	80.0%

※使用量については購入量と在庫量の差による
 ※CO₂換算は、LCAフローの範囲にて発生する新生紙の換算係数(3.031)を使用して算出

予測評価技術の進化によるテスト用シートの使用量削減 事例

シート単品の衝突テストにおいて、CAE解析※¹の活用により予測評価技術を進化させ、衝突テストにおけるテスト用シートの使用量削減を可能にしました。

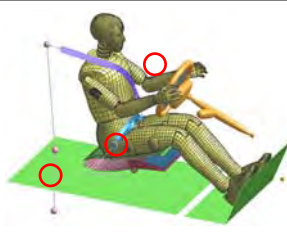
【従来】



試作品による衝突テスト実施

↓
 設計パラメータ変更後
 再テスト実施

【取組み後】



試作品テストと関連のあるCAE解析を用い、設計パラメータを変更

↓
 300パターンの解析実施
 試作品を使わず設計パラメータ最適化



テスト用
 シートフレーム
 4.8t/年 削減

※1. CAE解析：Computer Aided Engineering の略。コンピュータ支援による解析のこと。

2008年度環境保全活動実績

1) 製品開発領域

環境に優しいオリジナルクッション材の適用 事例

自動車用シート及び内装品を中心とした製品以外に、車椅子などの製造においても、製造工程から発生するCO₂削減、省資源化など四輪車用製品開発で蓄えた技術を役立てております。
当社が製品開発した環境にやさしいクッション材（レスピラーレ）が、本田技研労働組合のボランティア活動※1である車椅子用シートに採用されました。



交換後の車椅子

※1.本田技研労働組合のボランティア活動:本田労組独自の活動である「ホンダリパートホットライン」は、車いすのシートを、すわり心地の良い自動車のシートに交換するボランティア活動です。

レスピラーレとは環境と快適性を両立したクッション材



- 100%ポリエステルなのでリサイクルが簡単
- 繊維だけの構造体なので通気性が良い
- ウレタンと比べて断然軽い(▲30.0%)

開発活動における消費電力の削減 事例

開発活動に欠かせないコミュニケーションツールとしてのメールサーバーについても、機種変更を行い、年間約96.1kWhの消費電力削減（CO₂換算で年間約0.32tの削減）を行いました。



CO₂ 約0.32t/年 削減

機種変更



消費電力	200.1Wh
年間消費電力	1,752.8kWh
年間CO ₂ 排出量	0.662t/年

消費電力	104Wh
年間消費電力	911.0kWh
年間CO ₂ 排出量	0.344t/年

2008年度環境保全活動実績

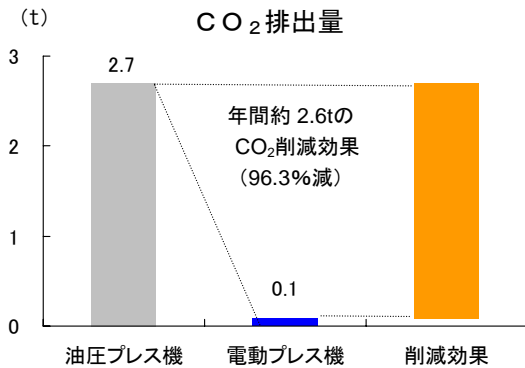
2) 生産領域

生産設備での環境改善 事例

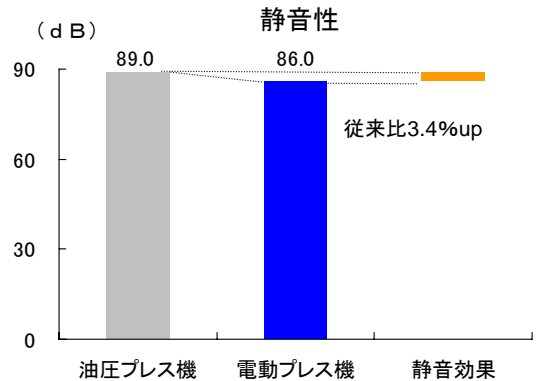
プレス機を従来の油圧方式から、高効率且つ低消費電力の電動方式に切替えることにより、CO₂削減に努めています。また、油圧ポンプが必要ないため、静音性が高く作業環境改善との両立を達成しています。



電動プレス機



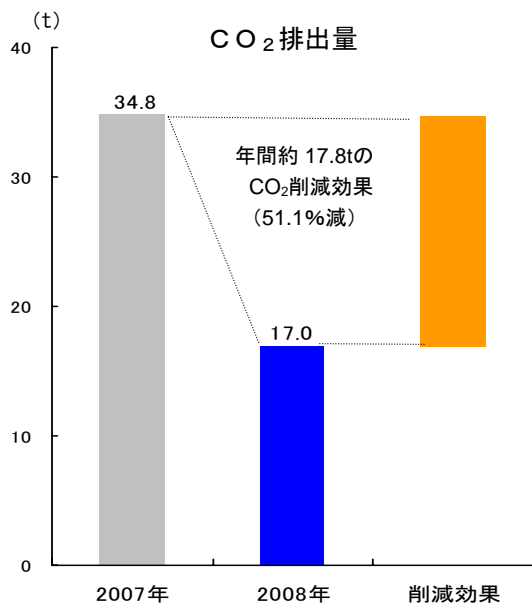
※CO₂換算は電力換算係数を使用しています。



※静音性については、当社実測値です。

エネルギー資源の代替えによる省エネルギー化 事例

プロパンガス燃焼式ボイラーによるスチーム装置から電気式スチーム方式への切替を段階的に行ってきましたが、埼玉工場(行田)組立工程の切替が完了しました。



※CO₂換算はプロパンガス換算係数を使用しています。



切替後：
電気式スチーム方式



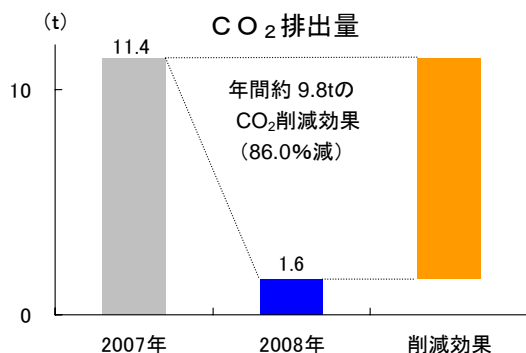
切替前：
プロパンガス
燃焼式ボイラー

2008年度環境保全活動実績

2) 生産領域

高効率搬送化と省資源化 事例

従来、埼玉工場(行田)内での製品搬送をLPガスフォークリフトを使用していましたが、高効率化と省エネに取組み、電動牽引車による連結車両の採用により、電動化・輸送効率の両面でCO₂削減に貢献しております。



電動連結車両

排出ガスのゼロ化への取組み 事例

当社は有害物質の削減活動として、フォークリフトの排出ガスゼロ化を推進しています。

2008年度には、保有台数の半数以上をガスの排出がない電動フォークリフトに変更しました。

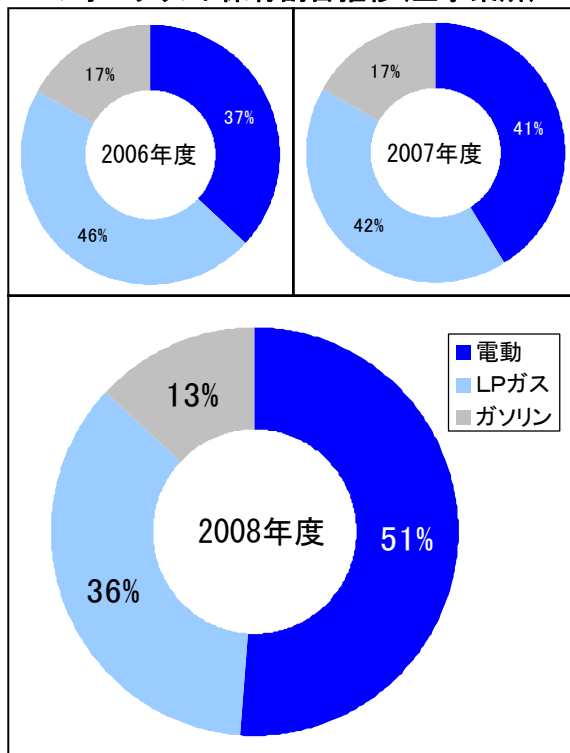
今後はゼロ化達成に向けて更に活動を加速させるとともに、グループ全体へゼロ化活動を拡大させる予定です。



電動フォークリフト

プラグイン充電

フォークリフト保有割合推移(全事業所)



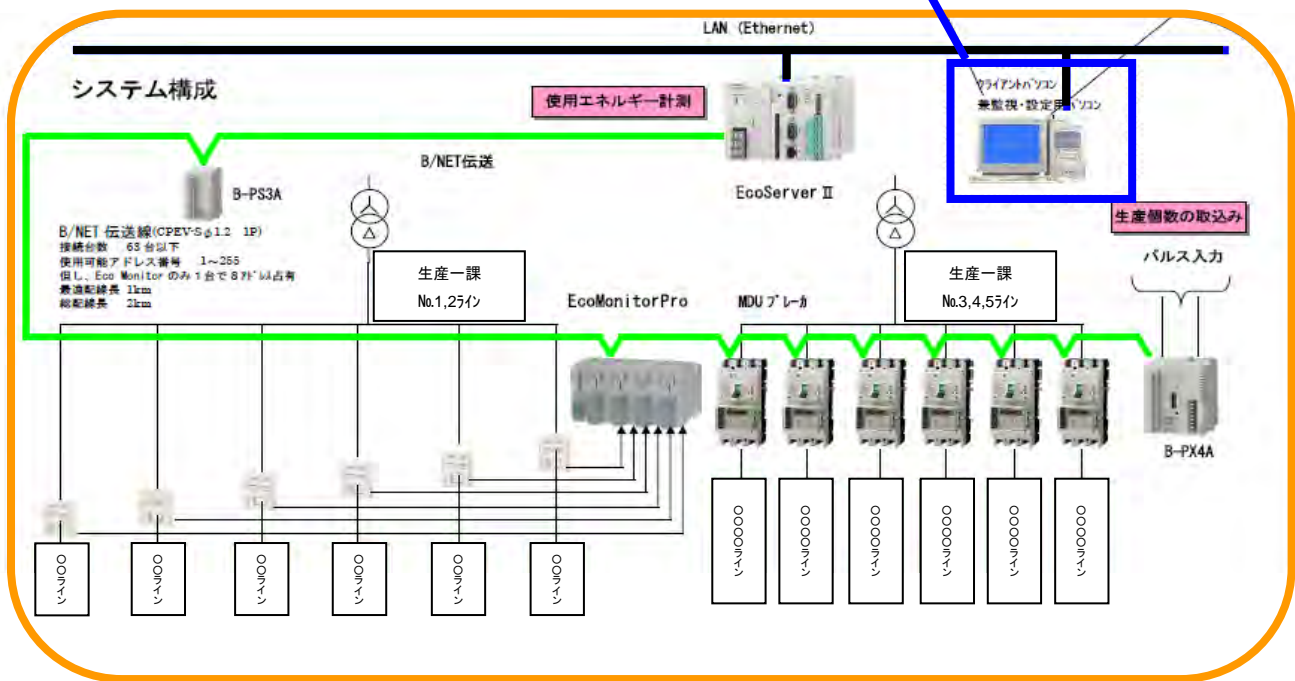
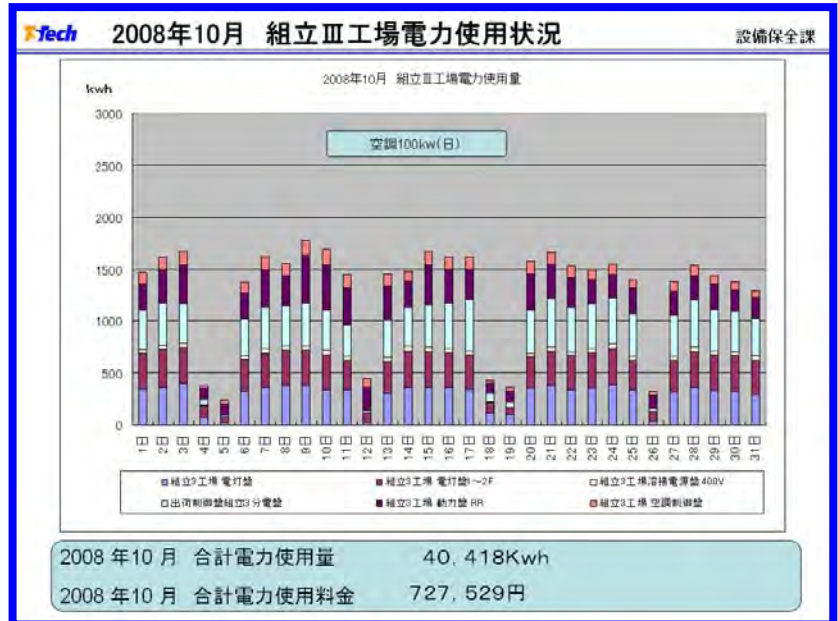
2008年度環境保全活動実績

2) 生産領域

電力監視システムの導入

当社埼玉工場（行田）では、「エネルギーの見える化」管理の推進から、電力監視システムの導入を実施いたしました（2008年6月稼動）。このシステムにより各生産ラインや空調設備等の電力使用状況がタイムリーに把握できるようになり、エネルギーロスの発見や効率改善に向けた取り組み効果が見えるようになりました。今後も更なるCO₂削減活動に役立つシステムとして活用を行ってまいります。

Webブラウザ閲覧画面



2008年度環境保全活動実績

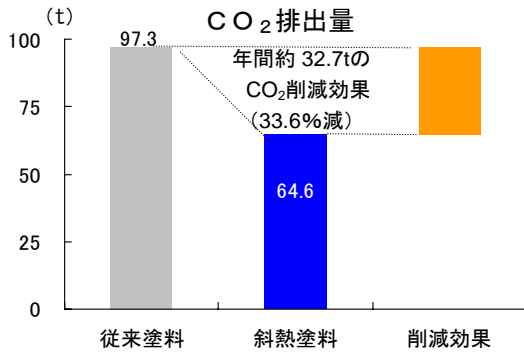
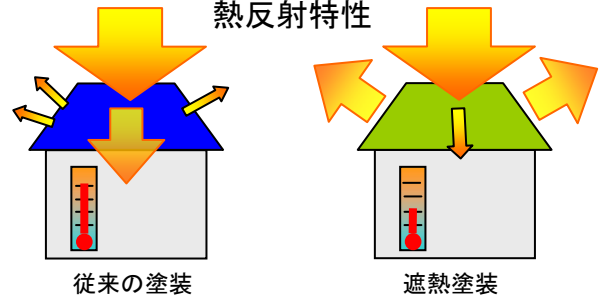
2) 生産領域

空調設備への負荷低減 事例（栃木・エンジニアリングセンター）

遮熱性の高い屋根塗料を採用し、冷房効率のUPを図り、CO₂削減に努めています。



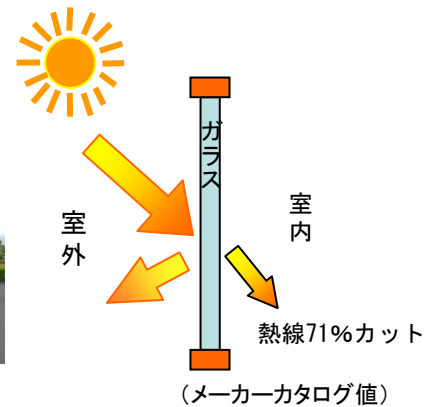
熱反射特性



建屋出入口に風防室を設けて無駄な空気の流出入を抑制し、空調効率のUPを図り、CO₂削減に取り組んでいます。またガラス面にはミラータイプのフィルムを貼り、太陽光からの熱線侵入防止を図っています。

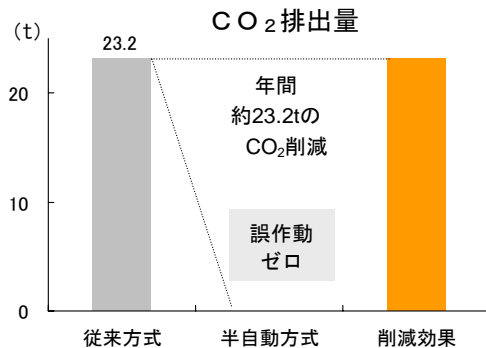


風防室とフィルム施工



（埼玉工場（行田））

従来のセンサー式全自動開閉シャッターから、開放時は手動の半自動化にすることにより、付近を通過する移動物による誤作動を防止し、無駄な空気の流出入を抑制し空調効率のUPを図りCO₂削減に取り組んでいます。



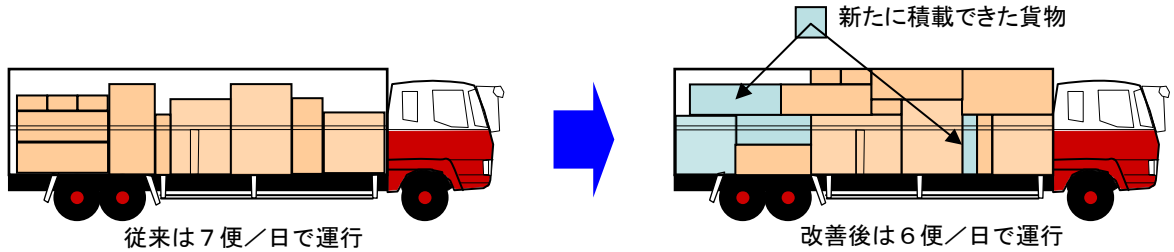
2008年度環境保全活動実績

3) 物流領域

積載率の最適化による便数削減 事例（浜松工場）

納入便の削減に向けた取組みとして、客先調整や出荷計画を見直すと共に、トラック積載貨物の積載率改善を実施し、納入便数を削減することによりCO₂の削減を図っています。

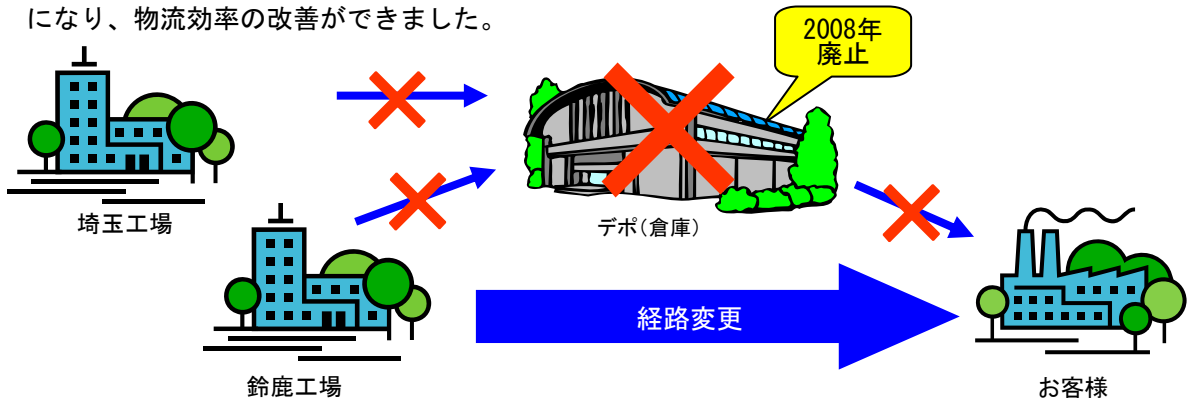
CO ₂	削減量	従来比 12.6t/年
	削減比	従来比 14%



輸送距離短縮化 事例（鈴鹿工場）

物流ロス低減のため、従来は納入前に一度倉庫に納入し客先に搬入していましたが、客先受入れ方法や搬入方法等の改善で、ダイレクト搬入が可能になり、物流効率の改善ができました。

CO ₂	削減量	従来比 1.0t/年
	削減比	従来比 61%



省資源取組 事例（栃木・エンジニアリングセンター）

輸出金型の梱包を、防錆処理を徹底することで、従来の木枠密閉梱包から、すかし梱包にすることを可能にしました。その結果、輸送重量の低減と木材使用量の削減を実施しています。

CO ₂	削減量	従来比 21t/年
	削減比	従来比 41%



立木1本分のCO₂吸収量に換算すると、約85本/年分に相当します。



すかし梱包



密閉梱包

2008年度環境保全活動実績

4) 購買領域

化学規制物質の取組み

最近時欧州を発端として、化学物質規制の取組みが年々強化されています。当社においても、顧客ニーズに対応すべく各種の規制に対する調査をサプライチェーンを通して行い、規制物質の削減に取り組んでいます。

REACH規制取組み

当社2008年度の取組みとして、期初に開催された当社お取引先様懇談会において、SVHC（高懸念物質）の含有情報調査の協力要請や、化学物質管理の強化と削減に向けた購買方針のご案内をさせていただきました。

63期		取引先目標		F-Tech	
		取組み項目	63期目標値		
Dv 開発	共同開発の強化充実		共同開発5件完了/期		
	企画精度向上		取引先K/Hの意志入れ P2完了		
	検証精度向上		全取引先種項目 型G0時"0"		
	高品質面への安定出力		型G0以外の総量1/10 出回遅延"0"		
	有害化学物質規制 (REACH) 対応		REACH規制 100%対応		

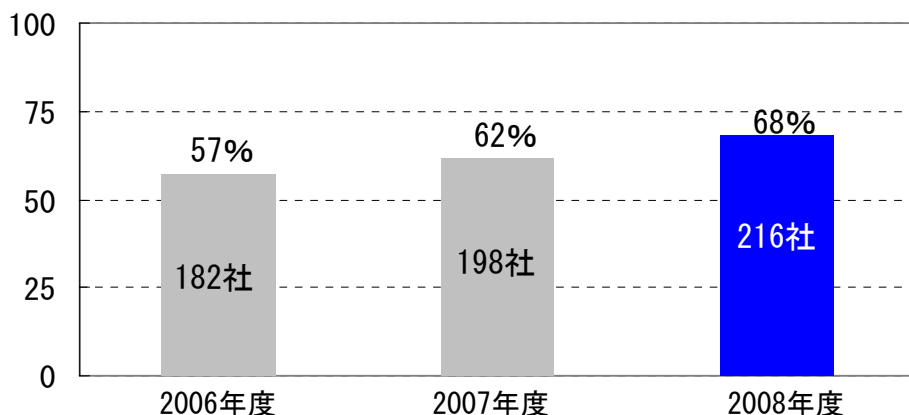
目標の必達をお願い致します

取引先懇談会で、化学物質規制取組みについて説明いたしました。

お取引先様環境マネジメント

世界的に環境対応に関する認識が高まる中、主要お取引先に対し、テイ・エス テックはISO14001の取得取組を奨励してまいりました。その結果、2008年度は68%へ増加し、環境問題取組みへの活性化に繋がりました。

●お取引先様取得率推移（320社に対し、調査）



今後においても、環境負荷低減に向けお取引先様と連携し活動してまいります。

2008年度環境保全活動実績

5) 品質領域

当社は、高品質製品の製造・供給を行うことにより、不良率の低減（資材削減）及び生産の高効率（エネルギー・資源の有効活用）につなげ、環境負荷低減にも好影響を与えております。



主要顧客である本田技研工業(株)様より2008年における、世界的な量産品質向上を評価され、2008年度グローバル品質賞を2009年1月に受賞しました。今後も品質改善による資源・エネルギーの有効活用に貢献してまいります。



グローバル品質賞 盾

QC活動（TCサークル）

世界11ヶ国28拠点から選抜大会を勝ち抜いた18サークルによる「TCサークル世界大会」を2008年11月に行いました。各拠点からの品質改善・効率改善の現場からのアイデアを共有し、各拠点に水平展開することによりグローバル規模での品質改善・効率改善の展開を行っております。



2008年度環境保全活動

テイ・エス テックは各地域の環境保全活動にも積極的に参加して、より良い環境を目指しています。また近隣小学校の校外学習や自治会の皆様においていただき、テイ・エス テックの取組み等を紹介して、地域の皆様との交流を図っております。

各地域別活動実績

埼玉地区

- ・ 埼玉県緑のトラスト活動に協賛
- ・ 埼玉工場（行田・狭山）、本社近隣の清掃活動
- ・ エコキャップ活動の開始（ポリオワクチン運動）



本社地区のエコキャップ運動

栃木地区

- ・ 地元「花いっぱい運動」への参加
- ・ 小学生を対象に事業所見学会を実施し、当社の環境活動等を説明。



栃木地区の花いっぱい運動

浜松地区

- ・ クリーニング時に収縮してしまった軍手の再利用を目的として、小学校へ寄付。
- ・ 浜松工場近隣の清掃活動



小学校へ寄付

鈴鹿地区

- ・ 白子海岸、事業所近隣の合同清掃活動
- ・ 木田町自治会による工場見学・懇談会を行い、地元住民の皆様にご案内。



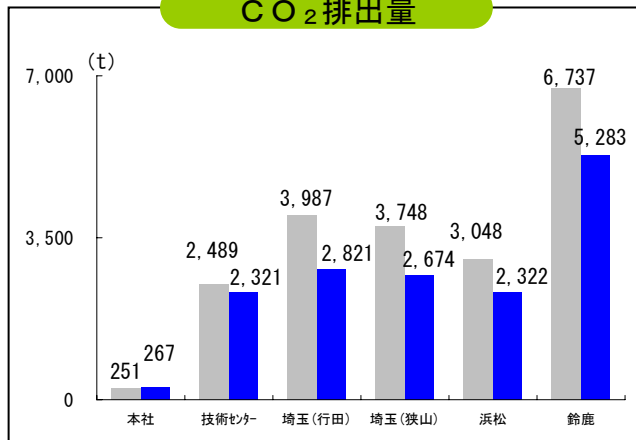
白子緑地公園と白子海岸清掃

2008年度各事業所別関連データ

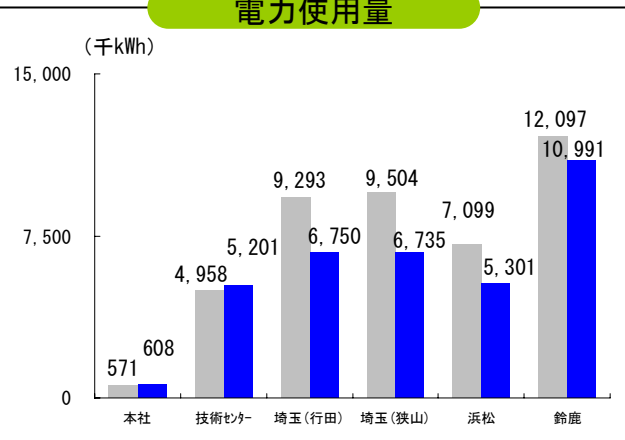
国内事業所エネルギー・廃棄物データ

■ 2007年度 ■ 2008年度

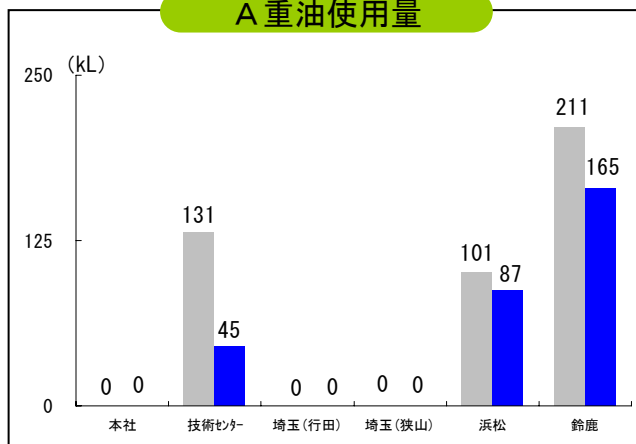
CO₂排出量



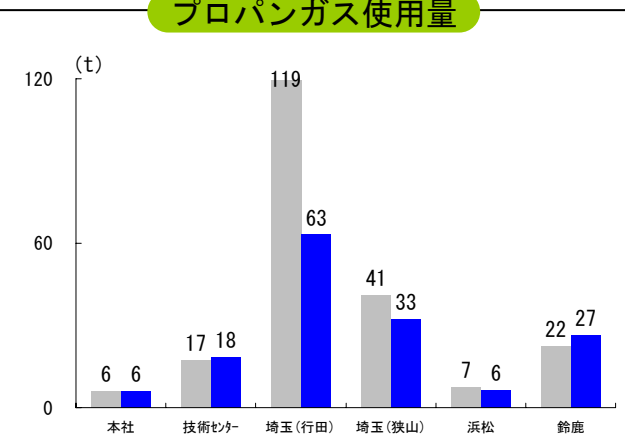
電力使用量



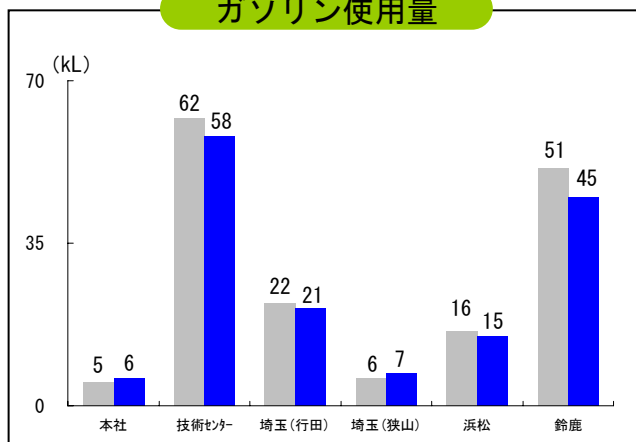
A重油使用量



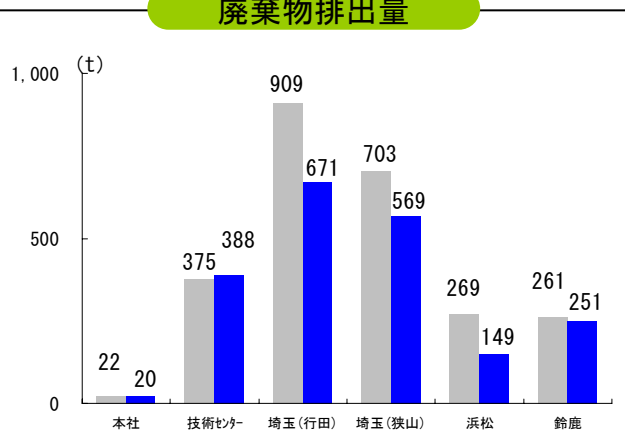
プロパンガス使用量



ガソリン使用量



廃棄物排出量



2008年度各事業所別関連データ

国内事業所

本 社

- 所在地：埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
- 主要業務：本社業務

■水 質

項 目	単 位	※規制値	実績
水素イオン濃度	PH	5.0～ 9.0	8.5
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	600	157
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	600	165

※規制値は自主規制値です

技術センター

- 所在地：栃木県塩谷郡高根沢町太田118番地1
- 主要業務：R&D開発、営業、購買、品質管理、製造・成形技術開発、金型製造加工、安全評価試験

■水 質

項 目	単 位	規制値	実績
水素イオン濃度	PH	6.0～ 8.4	7.4
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	10	9.9
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	25	13

埼玉工場（行田）

- 所在地：埼玉県行田市野3600番地
- 主要業務：四輪車用シート、ドアトリム、ステアリング製造、オプションパーツ、医療・介護関連商品製造

■水 質

項 目	単 位	規制値	実績
水素イオン濃度	PH	5.8～ 8.6	8.1
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	25	8.3
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	60	6.0

■P R T R

(単位：t)

項 目	取扱量	大気 排出量	移動量
ジクロロメタン	1.2	4.8	7.4
トルエン	4.6	3.7	1.0

埼玉工場（狭山）

- 所在地：埼玉県川越市南台1丁目10番2号
- 主要業務：ドアトリム、ルーフトリム製造

■水 質

項 目	単 位	規制値	実 績
水素イオン濃度	PH	5.0～ 9.0	7.6
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/ℓ	600	240
浮遊物質 (SS)	mg/ℓ	600	75

2008年度各事業所別関連データ

国内事業所

浜松工場

- 所在地：静岡県浜松市浜北区善地358番地
- 主要業務：四輪車用シート、二輪車用シート、建設機械シート、ドアトリム、ステアリング製造

■水質

項目	単位	規制値	実績
水素イオン濃度	PH	5.8～ 8.6	6.9
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	160	67
浮遊物質量 (SS)	mg/l	200	27

■PRTR

(単位：t)

項目	取扱量	大気排出量	移動量
ジクロロメタン	6.2	6.2	0
トルエン	5.2	5.2	0

鈴鹿工場

- 所在地：三重県鈴鹿市木田町60番地
- 主要業務：四輪車用シート、ドアトリム製造

■水質

項目	単位	規制値	実績
水素イオン濃度	PH	5.8～ 8.6	7.3
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	25	7.0
浮遊物質量 (SS)	mg/l	90	17

■PRTR

(単位：t)

項目	取扱量	大気排出量	移動量
ジクロロメタン	1.7	1.7	0
トルエン	9.2	7.6	1.6

2008年度各事業所別関連データ

国内関係会社

九州テイ・エス株式会社

●本社所在地：熊本県菊池市赤星1890番地

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	13,128,752
ガソリン	kL	38
軽油	kL	7

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	444

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	66,859

サン化学工業株式会社

●本社所在地：静岡県浜松市北区新都田4丁目4番6号

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	2,134,541
ガソリン	kL	7
軽油	kL	3

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	179

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	5,722

総和産業株式会社

●本社所在地：千葉県千葉市中央区中央3丁目9-16
三井生命千葉中央ビル4F

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	5,464,733
ガソリン	kL	45
軽油	kL	6

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	394

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	6,432

2008年度各事業所別関連データ

海外子会社

北中南米地域

TRI-CON INDUSTRIES, LTD. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	5,737,654

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	3,045

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,830

TS TECH USA CORPORATION (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	10,659,200

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	4,436

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	11,015

TS TECH ALABAMA, LLC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	6,687,396

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	680

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	17,319

TS TECH INDIANA, LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	2,427,847

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	753

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,396

TS TRIM INDUSTRIES INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	21,515,740

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	239

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	2,300

TS TECH NORTH AMERICA, INC. (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	2,863,611

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	87

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	53,859

TriMold LLC (アメリカ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	8,902,369

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	411

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	73,976

TS TECH CANADA INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	4,467,891

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	316

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	3,196

2008年度各事業所別関連データ

海外子会社

北中南米地域

TRIMONT MFG. INC. (カナダ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	4,952,000

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	637

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	11,200

INDUSTRIAS TRI-CON DE MEXCO, S. A. DE C. V.

(メキシコ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	7,267,100

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	1,076

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	18,710

TS TECH DO BRASIL LTDA. (ブラジル)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	2,064,775

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	767

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	11,387

アジア地域

TS TECH TRIM PHILIPPINES, INC. (フィリピン)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	1,232,000

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	163

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	15,478

PT. TS TECH INDONESIA (インドネシア)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	1,204,836

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	26

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	9,332

TS TECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	5,596,860

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	627

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	47,724

TS TECH SUN(INDIA) LIMITED (インド)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	870,575

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	173

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	10,716

2008年度各事業所別関連データ

海外子会社

EU地域

TS TECH UK LTD. (イギリス)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	4,125,653

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	438

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	9,327

広州提愛思汽車内飾系統有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	4,938,120

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	195

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	104,889

寧波保稅区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

(中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	757,026

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	187

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	3,729

武漢提愛思全興汽車零部件有限公司

(中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	2,145,522

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	524

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	33,940

中国地域

広州德愛康紡績内飾製品有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	585,062

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	37

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	5,750

寧波出口加工区提愛思泉盟汽車内飾有限公司

(中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	1,849,325

■廃棄物

項目	単位	排出量
排出量	t	258

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	12,860

広州広愛興汽車零部件有限公司 (中国)

■エネルギー

項目	単位	使用量
電力	Kwh	1,904,540

■廃棄物

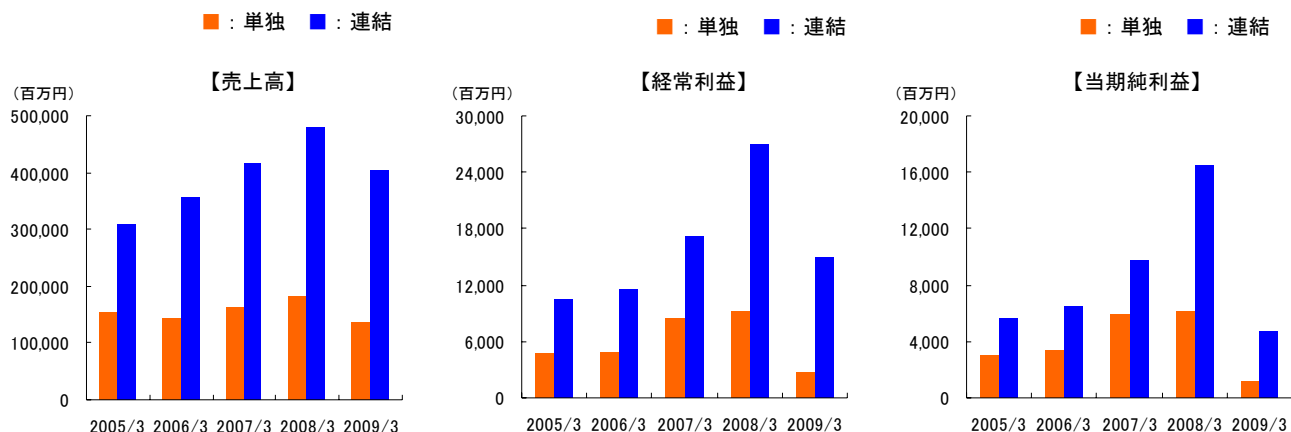
項目	単位	排出量
排出量	t	34

■水

項目	単位	使用量
使用量	m ³	13,200

会社概要

商号	テイ・エス テック株式会社 (英文名: TS TECH CO.,LTD.)
設立	1960年12月5日
本社	〒351-0012 埼玉県朝霞市栄町3丁目7番27号
資本金	4,700百万円
売上高	単独135,852百万円 連結404,761百万円
主な事業内容	四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、 二輪車用樹脂部品等の製造販売
従業員数	単独1,582名 連結12,871名 (2009年3月31日現在)
主な取引先	本田技研工業(株)、(株)本田技術研究所、(株)ホンダトレーディング、 (株)ホンダアクセス、スズキ(株)、ヤマハ発動機(株)、川崎重工業(株)、 富士重工業(株)、いすゞ自動車(株)
業績	2009年3月31日現在



後記

この度、昨年に引き続きまして当社2回目となる『環境取組実績報告書2009』を発行することができました。

今回発行いたしました実績報告書では、国内事業所（関連会社を含む）実績と海外子会社の実績データ（一部を除く）の掲載ができました。

このような一連の情報発信を通じてより多くの方に当社の環境に対する考え方や取組みを知っていただければ幸いです。

2009年9月30日

テイ・エス テック株式会社
環境報告書編集委員会
業務監理本部 CSR室 環境マネジネント課

お問合せ先

TEL.048-462-1128 FAX.048-465-0403